

（午前10時45分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番14、3番 富岡君。

〔3番（富岡清彦君）登壇〕

○3番（富岡清彦君）よろしくお願ひいたします。

一般質問を行います。私は「市政の主人公は市民である」。この立場から2項目について質問します。一項目目の質問は、保育園・幼稚園・小学校・中学校の耐震対策について質問します。この問題は、既に他の議員から質問がありました。その点を配慮して質問したいと思います。

本年、5月12日、中国の四川省で発生したマグニチュード7.8の大規模な地震。報道によれば、約8万人もの尊い命が奪われ、今日に至っても、約1万人もの行方不明者が存在するという大惨事となりました。

私は、この大震災で心を痛めたのは、多くの小・中学校が倒壊し、震災時、授業中であつたことと相まって、多数の児童生徒の命が奪われる結果となったことです。日本政府は、この大規模な痛ましい事態を受けて、本格的・抜本的な地震対策を小・中学校で実施する決断をし、必要な法改正も既に行われました。そこで、以下4点について質問します。

質問の第1は、市当局は、地震対策の必要性は十分に認識しながら財政難を理由に、小・中学校の地震対策を、1棟も実施出来ない現状にあったが、今回の、政府が行つた法改正で、地震対策に必要な経費、自治体負担分はどう変わったのか伺います。

第2の質問は、市内の保育園・幼稚園・小

学校・中学校の耐震診断結果を具体的に求めます。保育園・幼稚園については、耐震診断を実施していないと認識するが、計画があれば示してください。

第3の質問は、耐震対策、具体的な改修計画を伺います。特に危険な校舎については、保護者・市民に公表し、早急な改修が求められるわけですが、私は、改修が行われるまでの間、特別な避難訓練を実施すべきと考えます。この点で教育委員会の見解を伺います。

第4の質問は、市内の全保育・教育施設の耐震対策について、補正予算での対応、来年度予算での対応など、2年間をめどに実施できないか、答弁を求めます。

2項目目の質問は、県教育委員会が実施して2年目の、高校2段階入試制度についてです。

第1の質問は、前期選抜・後期選抜という「2段階入試」により、受験する半数の生徒が、前期選抜で「不合格」という悲しみを味わう結果となっています。生徒・保護者・教職員から批判のある高校2段階入試制度、県教委は、何を目的に、こんな制度を導入したのか、また、市教育長は本制度について、どのように考えているのか伺います。

第2の質問は、今日、ほとんどの中学卒業生が高校進学を希望する中で、子どもたちが、全員、希望する高校に進学できる方策について伺います。大分昔のことでもありますけれども、蜷川京都府知事の時代、「15の春は泣かせない」として、年次計画をつくり府立高校を次々に建設しました。現在は、少子化の時代です。多くの生徒を泣かせないで希望する高校に進学できる、なぜ、このことを実現できないのか不思議です。教育長の妙案を伺い、

1 回目の質問を終わります。

○議長（中上良隆君）3 番 富岡君の一般質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君）幼稚園、小学校、中学校の地震対策についてお答えをいたします。

まず、1 番目の自治体の負担につきましても、地震防災緊急事業5 箇年計画に基づきまして実施される耐震補強工事は、従来国庫補助率が2 分の1 で、実質的な地方負担は事業費の31.25% でした。今回の法改正によりまして13.3% となり、自治体の負担の軽減が図られました。

この改正は中国・四川省で発生した大規模な地震による影響が大きく、また、地方の学校施設耐震補強工事が進まなかった理由の一つに地方の財政事情があったと思われまます。今回の国庫補助率の引き上げによって、年度は限られておりますが耐震補強工事はスピードアップされると考えます。学校施設については耐震2 次診断が2 校今年度診断中ですが、24 年度までの5 カ年で補強工事が終わるよう計画を作成したところでございます。

2 番目の耐震診断の結果でございますが、旧耐震基準で建てられた建物37 棟のうち、文部科学省が求めている構造耐震指標 I s 値 0.7 以上を満たしていないものは31 棟ございます。うち、0.3 未満の建物は6 棟あります。これらの棟については、より精密な耐震2 次診断によりまして耐震補強工事を行う計画を進めております。

3 番目の具体的な改修計画については、平成24 年度までに耐震補強工事を完了するよう、構造耐震指標 I s 値が低いものから工事を行う計画です。具体的には、21 年度に1 校、22 年度に2 校、23 年度に3 校、24 年度に2 校と、それと2 園を計画しております。

次に耐震診断結果の公表につきましては、今回の法改正で公表を義務づけられておりますので公表をいたします。また、いつ起こっても不思議ではないという東南海・南海地震に対して、備えをし、対応を行うため、具体的な行動がとれるように実践的な訓練を計画的に展開する必要があると認識しております。各学校では、児童生徒の防災対応能力を高めるため、また、教職員が児童生徒の安全確保を確実にできるよう、防災管理のために自らが果たすべき役割を明らかにし、着実に対応できるよう努めております。全ての学校において火災・地震・不審者などを想定した防災訓練が実施されておりますが、平成19 年度の学校の防災訓練の実施状況に比べ、平成20 年度は小・中学校において9 校が回数を増やして実施することとなっております。また、幼稚園におきましては毎月1 回の防災訓練を実施しております。

全ての小・中学校におきまして毎月1 回の訓練を行うことは、カリキュラムの実施上困難な面がございますが、校長会を通じて、実施回数を増やすこと、災害発生の多様な場面を想定した訓練などをさらに充実させるよう指導してまいりたいと思っております。また、学校だけでなく地域と連携した体系的組織的な防災訓練を計画的に実施してまいりたいと考えております。

4 番目の予算や今後の実施についてですが、耐震化を早急に進めるべくこの度の9 月定例市議会に補正予算で応其小学校の耐震補強工事設計委託料や隅田小学校耐力度調査費用を計上しております。構造耐震指標 I s 値の低い建物の補強工事を最優先に平成24 年度までの5 カ年で補強するよう計画をしておりますのでご理解をお願いいたします。

続いて、高校2 段階入試制度についてお答えいたします。

議員ご指摘の通り、平成19年度入試から導入されております「高校2段階入試制度」には、受験生の半数以上が前期に不合格になるという生徒にとっては苦痛を伴う制度であり、大きな問題があると考えております。

このことにつきましては、本市の教育委員会でも話し合いをもつております。「約半分が前期で不合格になることから、子どもたちに、過度な心配をかけさせていないか」「本来の子どもの希望に見合った進路指導ができないのではないか」等の現行制度の改善を求める意見が出されております。また、中学校現場や保護者から同様の声も届いております。

私も教育長として県教育長との会合の際に、現行制度の廃止を含めた改善の要望を直接させていただいております。

県教育委員会でも、本年3月に高校入試制度に関する検討会を設置し、協議を重ねていると聞いておりますので、平成22年度以降入試制度が改善され、生徒の多くが自ら選んだ高校に進学できるよう形を変えて実施されるものと期待をしております。また、今後も、制度改善について注目し、必要な要望を行っていきたいと思います。

また、子どもたち全員を、それぞれの希望する高校に進学させる方策はとのおただしについてお答えします。

少子化の中で、高校の統廃合や学科改編が進むことも予想されますが、進路保障は将来社会的自立を果たすためにも、大切にされなくてはならないと考えております。

方策として次の2点が挙げられます。

先のおただしとも関係をいたしますが、一つには「入試制度の改善」が挙げられます。現状の2段階選抜を改めることにより、生徒一人ひとりが進路の目的を持って入試に臨むことができるようになると考えられます。

次に、高校の定員枠の確保が挙げられます。

伊都地方には、普通科や工業、商業、農業に関する高校、定時制高校がバランスよく配置されていますが、普通科を志望する生徒の割合が多い現状です。少子化が進む現状ですが、普通科の定員を維持する方針も必要だと考えます。

しかし、何をおいても子どもたちが充実した生涯を過ごしていくための進路指導の充実が不可欠です。変化の激しい時代をたくましく生き抜いていく力、生き抜いていこうとする意志・自己肯定感を育てる必要があります。

義務教育9年間を見据えた教育実践を通じて、子どもたちに「確かな学力を身に付けること」「主体的に課題を解決する資質や能力」「自らを律し、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」など、「生きる力」をつけることこそ大切であると考えております。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（森本健二君）登壇〕

○健康福祉部長（森本健二君）次に保育園の耐震対策についてお答えします。

一点目の耐震診断につきましては、現時点では実施しておりません。今後、耐震診断につきましては、現在市内には、公立保育園は15園ございます。昭和56年以降に建設された三石保育園及び紀見保育園の2園と来年4月に開園予定であります高野口こども園に伴い、閉園となります高野口保育園、向島保育園、大野保育園及び信太保育園の4園の合わせて6園は耐震診断の計画から除外いたしております。また高野口こども園を除く第1次こども園構想に入っている保育園のうち、改修予定の保育園と岸上保育園、名古屋保育園及び伏原保育園につきましては、平成21年度より順次、計画的に耐震診断に取り組んでまいり

たいと考えています。

次に各保育園における地震・対策を含む訓練につきましては、園児の安全対策を図る上で、保育園ごとに毎月火災や地震を想定した避難訓練を実施いたしております。

地震訓練で申しますと、すべての保育園におきまして、平成19年度では、年2回から5回の避難訓練を実施いたしており、本年度も同様に実施いたしております。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君、再質問はありますか。

○3番（富岡清彦君）それでは、再質問を行います。

まず、お尋ねしたいのは、保育園の耐震診断ですね。今からやっていくということなんですが、それはどの程度の期間が必要なのか、考えておられるのか、そして、いわゆる1次診断、2次診断と言われるわけですけれども、行っていただけるのは2次診断、精度の高い診断なのかどうか、この点、伺います。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）今後、計画的に進めていくということで、こども園構想もありまして、その詳しいことについては、今、担当課のほうで協議中というか、計画的に今後していくということで、まだ詳しい、今、議員言われましたようなことについては、まだそこまで詰めた話にはなっておりません。申しわけないですけど、そういうことで、先ほど答弁させていただきましたとおり、今後、順次耐震診断をやっていくということの意思確認はしてますけれども、具体的な内容につきましてはまだ、申しわけないんですけども、そういうことでご理解いただきたいと思えます。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）わかりやすく質問します。

じゃ、来年度から予算を組んで、対象となっている保育園の耐震診断はスタートしていただけるんですか、この点、伺います。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（森本健二君）そのつもりでおります。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）よろしくお願いをしたいと思えます。

次に、答弁をいただいたんですけども、教育長から。私、申し上げたのは、I s値ですか、0.3以下のいわゆる学校に生活する子どものために特別な避難訓練を実施していただきたいということなんです。全体での避難訓練というのも必要かと思うんですが、なかなか避難訓練によって、中国の四川省の状況なんかを見ていると、なかなか限界はあるとは思いますが、日常的な訓練によって、1人でも2人でもということのか、多くの子どもたちが救われるというか、救われるようなすぐれたというか、訓練というものはないものか。休憩中、消防長と話をしていたら、なかなか難しいです。僕、50年ほど前やけど、訓練の経験があるけど、小学校か。何か布団を頭にかぶって机の下にもぐれというふうなことだったんですけども、今もあまり変わっていないようなんですけども、そうした、非常に高い確率で、非常に危険な校舎について、もちろん一日も早く改修をしていただいて、倒壊しない状態というのは早くつくってほしいんですけども、一方、可能な限りの訓練という点で、これも教育長、妙案はありませんかね。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）防災の関係の処方せんというのはなかなか見つけにくいと私自身も思っております。教育委員会につきましては、防災の関係、先ほども話、保育所もありましたが、小・中学校、幼稚園を含めま

して、そういった防災の訓練は定期的にやられております。今も言われましたように、やはり頭の保護というのか、地震があった場合には、これは今までテレビ等でも、地震となったらまず机の中に隠れる、身構えるということが基本的に大事だということだと思っております。的確な対処方針というのはいませんが、まず、揺れが確実におさまるまでに何らかの、それぞれの机の下で防空ずきんにかわるようないすに敷いておる座布団等で自分の頭をまず保護するということが大事だというふうに私は思っております。

今言われるように、災害の防災のマニュアルをつくりまして、実践的には幼稚園なんかではそういった部分で、特に恋野幼稚園なんかを見ますと、消防署にもお世話いただいて、避難訓練やらビデオの鑑賞等、いろいろ工夫をして、保護者の、言うたら迎えに来てもらう、そういう非常じゃなしに、マニュアルをもとにそういった保護者との連携も含めた訓練をかなりな時間をかけてやっておると、19年度の実績でございますが、やっております。

そういったことで含めて、要するに地震に対する教育というのか、訓練、そういうのを日常的に行うということが非常に大事だと。それも地域と結んで、地域の方と共同して自分たちを守るといふ、そういう部分の訓練というのか、そういう意識付けというのは、根底にはその家というのか、個人の家でしたら家を補強するということは大事ですけども、やはり家族との連携、地域との連携、そういった部分での学校の中での地震、あるいは防災に対する訓練、日ごろのそういった部分のお互いの認識というものが非常に大事だと私は感じております。

以上です。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）なかなか妙案はないと

いうことなんです、他の議員の質問、あるいは議案説明でも明らかになったんですが、最も危険な市内の小学校は、応其小学校であると。I s値0.22でしたか。次に、高野口中学校が同じように危険だということを知っております。今、次長の答弁を聞いていて、その応其小、あるいは高野口中で他の学校よりも訓練を重ねているという状況にないように聞き取れるんです。私、申し上げたいのは、特別にそうした危険な校舎で学ぶ子どもたちのための特別な訓練というのか、もちろん回数も大事だろうし、もちろん訓練の中身も大事かと思うんです。今、国内、国外を問わず頻繁に地震等が起きているわけで、そうした最新の訓練といいますか、訓練マニュアルというのか、そういうものをつくっていただけないにこしたことはないんですが、万が一のために対応していただきたいと思うんですが、再度伺います。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）先ほど答弁させてもらったことを基本に学校長と協議を重ねて、校長会等で十分議論をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）次に、早急な改修という点でお尋ねをいたします。

この耐震対策に改修に必要な総予算額ですね。それと、自治体負担分。先ほどの答弁で13%と、自治体負担分はというふうに言われましたのですが、要するに総額いくら必要なのか。そして、自治体負担分はいくらになるのかという点について伺います。概算で7億ぐらいか。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）富岡議員のご質問にお答えいたします。

平成20年度、今回、9月補正で設計費563

万7,000円は上程させていただいておりますけども、それも含めて24年度まで8校、小学校3校、中学校5校、幼稚園2園、合計10施設の総事業費は約7億2,600万円でございます。それに伴う必要となる一般財源、交付税の裏も含めましてですけども1億1,650万円、約1億1,650万円となりまして、率といたしましては16%でございます。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）危険な順というのか、学校名も具体的に紹介してください。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）答弁にも触れておりますが、I s値0.3未満につきましては応其小学校、高野口中学校というところで改修計画をされております。

以上です。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）答弁もれです。5年間かけて改修すると聞いているので、後の6校ですか、も挙げてください。保育園も。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（西本健一君）総額、先ほど財政課長から申し上げましたが、ある程度概数ですのでご了解をいただきたいと思います。

（「学校名を言って」と呼ぶ者あり）

○教育次長（西本健一君）学校名ですか。応其小学校が、まず、小学校の第1番目です。それから高野口中学校、それから、隅田中学校、西部中学校、西部小学校、学文路中学校、紀見東中、それから城山小学校、それから橋本・学文路幼稚園、そういったところでございます。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）よくわかりました。そこで、この改修計画を5年間かかるというふうに、今答弁をもらっているんですが、短期間にやれないかということなんです。もちろ

ん危険な校舎から改修していくということは当然なんですけども、それも含めて8校2園でしたか、今挙げていただいた、短期間、短期間というのは二、三年のうちにやれないかと。というのは、一方、何よりも子どもたちが安心して学べる状況を一日も早くつくっていくということ。

それから、今、建築業界、詳しい議員がおられますけども、割と仕事がないというふうなことも聞こえてきます。そうした関係から、教育委員会は大変かと思うんですが、改修計画を急いでというのか、詰めてつくっていただいて、短期間のうちに改修を終了すると。幸い、もちろん大きな負担ですけども、市の負担は1億1,000万円ということですので、他の議案にありますけれども、企業誘致の基金に3億8,000万円ですか、積み立てると。その出どころも聞いて納得しているんですが、こうした、本当に子どもたちの安全のために短期間に予算、1億1,000万円ですか、入れていただいて改修いただくというわけにはいきませんか。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）先ほどから言いました小中8校、それから幼稚園2園、それだけの改修費で終わるということでしたら、短期間にやれることは可能だと思います。

しかしながら、並行して、高野口小学校の、現在、今、体育館建築中でございますし、プールも建築中でございますし、21年度から校舎の改修が本格的に始まります。それら、あと、応其小のプールですとかと、いろいろと改修事業も計画されているところでございますので、すべてをある程度並行してやっていたかなければならないというところに厳しいところがあるということでございます。

優先順位をつけて、例えば、高野口小学校を後にして、8校と2園を先にせえというこ

とであれば可能だと思いますけども、そうい
かないところに苦勞するところでございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）私、高野口の80年前の
校舎を改修するのは後回しにせえとは言えま
せん。また、言いません。先ほど数字を聞か
せてもらって、1億1,000万円だとなれば、高
野口小学校は16億をかけてやるということで、
これ、ずっと進めていますよね。この耐震対
策費というのは新しい話なので、その辺、能
力の高い課長の手腕といいますか、1年でも、
5年間でやるのを1年でも2年でも短縮する
形でやっていただけないものか、再度伺いま
す。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）私のほうで1万円
札を印刷する機械でもあれば十分対応はでき
ると思いますけども、なかなか限られた財源
でございます。まして国のほうからも、今回、
国のほうが教育施設の耐震改修を早くするた
めに財政上の優遇措置を図ったということで、
今回、踏み切れたというところもございま
すので、いろいろもろもろの教育施設の整備等
をしていく中では、やはりこれが精いっぱい、
今の財政状況から見れば精いっぱいのところ
だと考えております。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）僕のちょっと認識不足
かわかりませんが、13%の自治体負担で改修
できると。それが、時限立法で、平成22年ま
ですよね。それと、5年計画との整合性で
すよね。これ、早くやればやるほど自治体負
担は減るということじゃないんですか。じゃ
ない。危険な校舎でない対象から外れると
いうことなのか、ちょっとその辺。

○議長（中上良隆君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）国が今、指針を締

めているのがI s値が0.3以下の数値に対し
て財政上の優遇措置をとったということでご
ざいますので、残りの0.3以上の施設につきま
しては、従来とは何ら変わっていないと。応
其小、高野口中学校が0.3以下になったために
財政上の優遇措置がとられたということでご
ざいますので、残りの8施設につきましては
従来補助率ということになろうかと思いま
す。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）最後は市長に判断を求
めたいと思うんですが、延々と質問している
んですが、これ、市長、いかがでしょうか。
決断していただけませんか。市長は最も力
を入れているのは企業誘致ですな。これ、成果、
上げてきてますよね。私どもも、これ、評価
したいと思うんですよ。県会議員と話をして
いて、今の市長、ようやくとるぞと言うたら
ね、いや、前の市長と比べたらあかんぞとい
うふうなことも、そんな余談なんやけども、
これはやっぱり企業誘致、言いたいのは、場
合によってはですけどね、企業誘致よりもや
っぱり子どもたちの命を優先せえと、こうい
う判断。1億1,000万円、政治判断をしてい
だきたいんですが、いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）富岡議員の再質問にお
答えをいたしたいと思えます。

非常に私も市長就任させていただいて以来、
やはり安全・安心というまちづくりですね。
これは何をおいても一番大事やということ
を強調をして今日まで来ておるわけであり
ます。職員もそれだけの意識改革を踏ま
えて取り組んでおるのが事実でございます。

そうした中で、やはり近年は、中国の四川
省の大きい地震に鑑みまして、やはり国も、
これは東北のほうは年に1回か2回は必ずあ

る。しかし、よそのことは言えません。やはり南海・東南海地震もいつあるかわかりません。そうした中で、やはり一番大事なのは、これは何と言っても児童生徒を預かっておる教育施設の充実、耐震から見まして、これはやっぱり大事なことです。これはよくわかるんです。

基金の取り崩しを皆ゼロにしましてやるとなったら、あした補正予算を組んで、ここへば一んと出したら気色がいいと思いますけども。

（「お願いします」と呼ぶ者あり）

○市長（木下善之君） なかなかやはりそれだけではいきませんし、先ほど担当からも申し上げたように、やはり改築、高野口の小学校でも十六、七億円のなんなんとする経費がかさんでいくという中で、やっぱりバランスをとりながら、ただただそういう災害のないことを祈っておるわけであります。

しかし、ご質問のことにつきましては、一応、内部でも再三再四教育委員会とも含めて積み上げてきた数値であるわけでございますが、できるだけそれを前倒しにしていけるような考え方、これはまた国のほう、県のほうとも一応十分協議をしながら、ご期待に添えるように最大の努力をしてみたい、そう思います。

以上でございます。

○議長（中上良隆君） 3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君） 今の市長の答弁に期待をしたいと思います。早急なすべての対象になっている学校の改修を急いでいただくということを強く強く要望をしておきます。

次に、2項目目の高校2段階入試制度について再質問を行います。

和歌山県教職員組合作成のチラシ、これを少し記事を紹介したいと思うんですが、本年2月に実施された、前期選抜(全日制)では、

7,417人が受験をして、3,999人が不合格ということになりました。実に54%の子どもが不合格なんです。このような制度について、「保護者の声」は、この春、わが家の長女が高校受験しました。幸い前期で合格できましたが、先生から「普通科では30%しか合格できないから、厳しいよ」と言われ、やむなく第1志望をやめ、第2志望に変更しました。こどもたちにとって「不合格」はショックです。その上、中学校卒業まで毎日、合格した子どもたちと一緒にです。子どもたちの心に悪い影響を与える今の入試制度、即ち見直してほしい。これは保護者の声です。

次に、「教職員の声」ですけれども、前期試験の合否を聞いた生徒たちが教室から出てきます。廊下に座り込み、泣き出す女子。その横を、合格の喜びを押し殺して次の生徒が通り過ぎます。さらに不合格だった子は、すぐに後期試験の進路選択を迫られます。3年間こつこつと重ねてきた教え合いの関係を、一気に壊してしまう2段階入試制度はすぐにやめてほしいです。これは先生の声。

次に、「受験生の声」ですけれども、前期試験で受けた。受ければラッキー。落ちてても後期試験で〇〇高校を受験・合格する自信がありました。しかし、前期試験で実際に落ちてしまった時はめっちゃくちやショックでした。それで△△高校を受験したいと言いました。先生と親に説得され、〇〇高校を受験し合格しましたが、前期試験で一度落ちたショックから不安いっぱいを受験しました。一度落ちたショックは思いのほか大きかったです。このような声が出されています。高校2段階入試制度、こんな制度は廃止すべきというふうに考えるんですが、教育長も同じような考えであるというふうに言っていたので、再度、この歴史といいますか、何でこんなしょうもないと言ったら怒られるのか、制度を

県教委は始めたのか、どのようにしてこの制度を廃止を求めた運動といますか、昨日も何か動きがあったようなんですが、そのことも含めて再度伺います。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）今までの経過なり、ちょっと簡単に概要だけ説明させていただきます。

今から30年前、もうちょっとですか、本来の推薦制度、職業科だけございました。定員の5%ぐらいでした。本当にこの科へ行って、将来はこういうほうへ進むという優秀な生徒です。それは本来の推薦で大変よかったと思っておるんですが、そういう時代が過ぎた後、職業科を50%からずんずん経過して、最終的には80%になるんですけど、そういうふうな推薦制度に変わってまいりました。その後、職業科だけではなしに普通科にまで推薦制度を導入してきたわけでございます。

そういうことで推薦、普通科まで行きますと、率は高校によって変わるわけですが、80%を推薦して内定さすか、50%にするか、いろいろ変わるわけですが、そうなりますと、ほとんどの子どもが推薦するわけです。300人3年生がおれば、ほとんど300人ほど、推薦を学校はします。ただ、例えば1年のときに生徒指導の問題行動があったとき、学校によっては、そういうのが1年であったから、それは推薦できない。また、学校によっては、それは1年生のことだから、今は3年生、きちっとしとるから推薦しよう。そういう学校によってもばらばらであったわけです。そういうことと、私どもも中学校でおりまして、教師というのは、生徒一人ひとりを大切にするというのが基本であります。そういう推薦制度、ほとんど推薦する中で、できない生徒がおるわけですね。例えば、たばこを3年のときに吸うてしまったと。それはちょっと

できません。そうなってくると、一番将来を大事にする進路のこの時点で、一人ひとりを大事にすると言っておきながら、あんたは推薦できませんよと、そういうことが大変つらかったんです。そういうことで、推薦制度のときから私どもは反対でございました。

それが続いたわけですが、それから、評価が相対評価から絶対評価に変わりました、通知票とか。そうなりますと、推薦は、今までは面接と内申と、学校によっては口頭試験みたいなのがちょっとあったわけですが、ほとんど内申と面接で決めていたわけですが。評価が相対評価から絶対評価に変わりますと、その評価だけでは判断できないわけですね、可否の判定が。それで、絶対評価に変わりましたら、推薦の場合でも筆記試験を入れる学校が増えてきました。英数国の筆記試験。それであれば、普通の推薦で筆記試験の3教科を入れるとなると、従来の試験と変わらないわけですが。そういったところからいろいろ苦情というか、批判がありまして、県も考えて、それでは前期と後期の試験をしようかと、そういうことになったようでございます。

結局、その制度は議員言われるように、子ども中心に据えた制度ではなくて、今までの経過を適当に変えただけに過ぎない。本当に何とも言えない、私は反対でございまして、私は県教委であろうが、県教委の下でおるんですけど、やっぱり子どもを中心に据えると、何ぼ県教委でもずっと私は反対するほうなので、この間も答弁させていただきましたが、山口教育長とお会いしたときも、これは絶対、要らないですねと、そういうことも実際言わせていただきました。そしたら、教育長も、私もそう思っていますと、そういうことを言ってくれたので私は期待をかけております。現在検討委員会、校長会代表、PTAの保護者代表、そういった検討委員会を設けて、今

まで7回やったようです、検討委員会を。それで、教育長としたらできるだけ早く結論を出したい。そうでないと子どもに、年度途中で結論を出すと、子どもに支障を与えると。できるだけ早く結論を出したいと言っているようです。

それから、議員言われていました、きのう、伊都地方に14校中学校があるわけですが、各校長先生、それから、PTAの各会長、県のほうへ陳情へまいりにいくわけですが、陳情に行ったようでございます。県会議員にお世話願っての、毎年陳情するわけですが、そこで前期、後期のを廃止してほしいということ、を陳情したようです。そういう状況、どういう雰囲気だったかということ、教育長も真剣に考えるということ、ええ方向に行くのではないかなという感触であったと、ちょっと聞いたわけですが、期待しておるわけですが、もしそうでなかったら、また意見を言いたいなど、そういうふうに思っております。

私も議員の言われるとおりに、生徒を中心に据えた制度ではないと思っております。本当に人間関係がなくなるし、親御さん同士も人間関係がうまくいっていない。それで、今まで推薦でだいたい半分落ちたぐらいでしたら、まだしも、試験で落とされたとなると大変重大なことになると思いますので、私も絶対反対の立場で考えてしております。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）3番 富岡君。

○3番（富岡清彦君）私ももういいんですが、この2段階入試に関しての教育長の政治姿勢というか、私は高く評価をしたいと思っております、このことに関してです。

最後、一つだけ。静岡県で、実は今年の高校入試制度、この制度について廃止をしたんです。その理由として、不合格を体験する生徒の心理的影響と、「3学期は授業になら

ない」と、こういう中学校側からの声で見直しを行ったというふうに聞きます。今の、先ほどの教育長の答弁を聞いていたら、何ぞのぼりでも立てて、毎日でも県教育委に行ってもらえるような雰囲気にとりましたので、ぜひその姿勢を貫いていただいて、毎日県教委へ行くわけにいきませんが、そうした機会あるごとにこの問題で、やはり子どもたちのために、教育長の言葉を借りれば、ぜひ廃止せよということで迫っていただきたいということを申し上げ、私の一般質問を終わります。

○議長（中上良隆君）これをもって、3番 富岡君の一般質問は終わりました。